

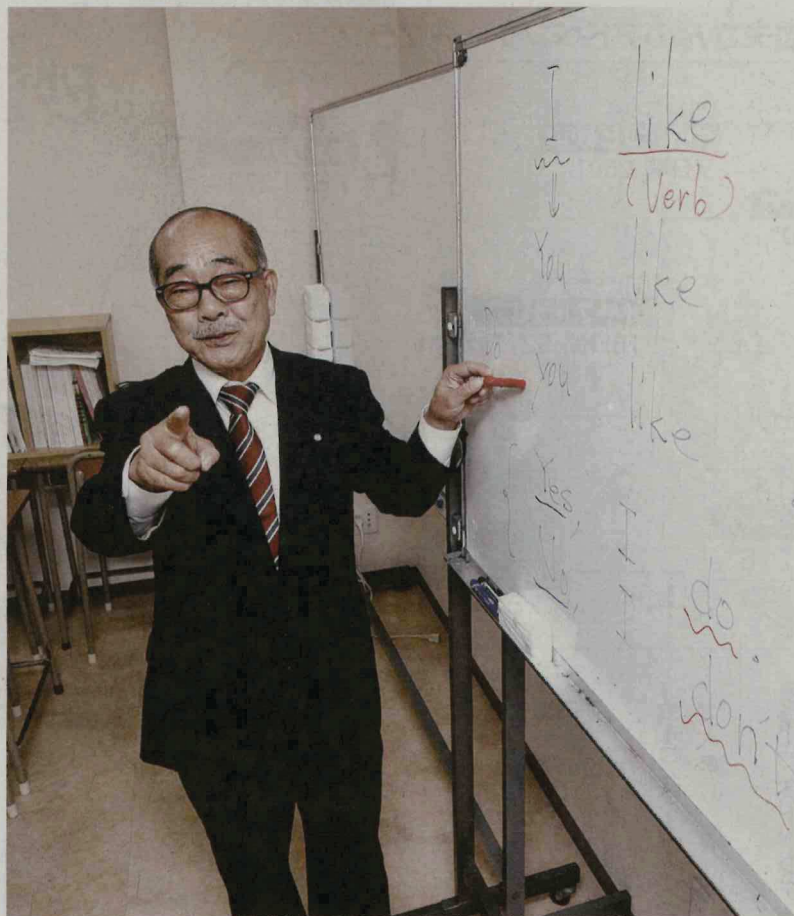
教育のベンチャーであれ

関西経営者列伝

イング

青木 辰二 名誉顧問

第1章



あおき・たつづ 昭和20年8月、堺市生まれ。43年に関西学院大を卒業し、貿易会社に就職後、44年に脱サラして地元・堺で英会話塾を開講。53年に法人化した。62年の合併で学習塾や予備校部門、平成5年の合併で社会人教育を本格化させるなど、さまざまな教育分野で幅を広げてきた。昨年、社長を退任し名誉顧問に。家族は妻と二男一女、趣味はゴルフ、スキーなど。

オール英語授業 70過ぎて教壇に

幼児教育や小中高生向けの受験・学習指導、大学生や社会人を対象とした資格取得、就職支援など、さまざまな教育分野で事業領域を広げてきた総合学習館のイング(本社・大阪市浪速区)。大阪を中心に和歌山や京都でも教室・講座を展開し、多くの生徒らに寄り添っている。創業者の青木辰二名誉顧問(72)は「出会い、情熱、挑戦」をモットーに、今も自社とともに歩み続けている。

は事業承継の難しさが社会的な課題にもなっていますが、うまく引き継ぐことができてよかったなと思っています。ただ、やっぱり人と接すること、現場が根付くから好きなんです。昨年は二十数年ぶりに塾の教壇に立ちました。

昭和44年に英会話スクールから出発して半世紀近く。教育事業のベンチャー、「世の中の流れを読み、変化をつくり出す企業でありたい」という思いで走り続けてきました。時代とともに変わっていき、さまざまなニーズに応える。常に「生徒のために」を主眼に置き、多種多様な教育サービスの提供にチャレンジしてきました。

担任教諭に感化 学生時代を謳歌

《大阪・堺で農業と雑貨店を営む両親のもと、7人きょうだいの末っ子として生まれた》

終戦の12日後の生まれです。から、まさに「戦後っ子」ですね。物のない時代でしたが、子供の頃はベッタン(メソコ)やビー玉遊びに熱中しました。末っ子だったから近所の人にもかわいがられてね。大人になっても「ボク」

と呼ばれていました。母はとにかくよく働く人で、店の仕事で朝5時くらいから配達に行って、戻ったら畑に出て。地域の世話役のようなこともしていました。小さい時から、あんなにいい、こうしなさいというようなことは一切言われなかった。母には、自分のことは自分で考えて行動しろ、がまんをなささい、という2つのことをよく教えられました。

《中学3年のとき、担任教諭から英語が好きになるきっかけをもらった》

誰でも仲良くなれるタイプで、中学時代は3年間学級委員を務めました。中3の担任の先生はおもしろい人で、海外航路客船の船長の話を聞かせてくれ、格好いいなあとかこがれた。英語がでないと世界にはたけないと思っ

てしっかり勉強するようになり、高校、大学ではESS(英語研究部)に所属して、スピーチや英語劇などさまざまなことに挑戦しました。高校受験では第1志望だった大阪府立校に落ちて、私学の桃山学院高に進みました。試験の前日に体調を崩したんですが、大きな挫折だったし、ショックでした。けれど、振り返ればこれがあって良かった。自由な校風が自分の性格に合っていたし、勉強も遊びも、人生で最も楽しかった3年間でした。妻とは高校3年のときに交際を始めた。思えば、もう50年以上の付き合いになります。

イング 創業史

- 昭和44年(1969)
青木辰二氏が脱サラし、「堺英会話センター」を創設
- 46年(1971)
「ILI英語学院」と改称。早期児童英語教育の普及に努める
- 53年(1978)
ILI英語学院を法人化。会社組織に
- 62年(1987)
西日本教育アカデミーと合併し、「イング教育アカデミー」に。学習塾事業を本格化させる
- 平成2年(1990)
本社を堺市から大阪市中央区に移転
- 3年(1991)
関連4社を統合させ、「イング」に商号変更。事業部体制を導入
- 5年(1993)
社会人教育の大阪経理学院と合併。新生イングとして、幼児から社会人までの生涯教育機関を目指す
- 7年(1995)
本社を大阪市中央区から浪速区に移転
- 22年(2010)
河合塾マナビスとフランチャイズ契約し、高校生向けの映像授業を開始
- 25年(2013)
学研塾ホールディングスと業務資本提携
- 28年(2016)
青木辰二氏が社長を退任し、長男の崇幸氏が社長に。辰二氏は名誉顧問に



小学校入学のとき、母と記念写真に収まる青木さん

次回は11日に掲載

文・内田透/写真・門井聡